

平成 21 年度第 1 回府中市子ども家庭支援センター運営協議会 議事録（要旨）

- 1 開催日時 平成 21 年 7 月 10 日（金）午後 2 時から 4 時まで
- 2 場 所 子ども家庭支援センターたち ミーティングルーム
- 3 出席者 委員 12 人、欠席 3 人
事務局（市）栢木主幹、遠藤課長補佐、福田主査、鈴木主任、菊水
（法人）片岡センター長、畑山
講演者 地域子育て支援担当 宮澤主査
自然育児友の会 内田、近藤 （計 22 人）
- 4 欠席者 喜多委員、国富委員、松井委員
- 5 傍聴人の数 0 人

6 次第（要旨）

（次第 1 開会）

事務局

みなさんこんにちは。定刻となりましたので、ただ今より平成 21 年度第 1 回府中市子ども家庭支援センター運営協議会を開催いたします。

本日はお忙しいところご出席をいただきまして、誠にありがとうございます。本日の進行を務めさせていただきます子育て支援課の菊水でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

まず欠席の連絡をいただいている委員さんでございますが、名簿 3 番の喜多委員、名簿 12 番の国富委員、名簿 13 番の松井委員の 3 名でございます。本日の協議会につきましては、開催の有効定数であります過半数の委員さんにご出席いただいておりますので、有効に成立していることをお知らせいたします。

また、本年は委員の任期の 2 年目となりますので、昨年に引き続きよろしくお願い申し上げます。人事異動に伴い、本年度から 2 名の委員さんが新しくなっておりますので、次第の 3 で自己紹介をしていただきます。よろしくお願いいたします。

それでは、開催に先立ちまして、子ども家庭部子育て支援課主幹で子ども家庭支援センター所長であります栢木よりご挨拶申し上げます。

子育て支援課主幹

本日は、府中市子ども家庭支援センター運営協議会にご参集いただき誠にありがとうございます。

この運営協議会は平成 12 年 4 月に発足しておりまして、その時々の課題、例えばこの「たち」の開設時には、子育て支援の中核施設としての機能などをご協議いただき現在に至っております。昨年度からは、育児の孤立を防ぐために、地域の子育て支援活動の推進や、子どもと家庭の支援のネットワーク作りなどについてご協議いただいております。委員の皆様のご意見を頂戴し、運営にいかしていきたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

事務局

ありがとうございました。続きまして資料の確認をさせていただきます。本日の配付資料といたしましては、次第、資料 1 の席次表、資料 2 の委員名簿、資料 3 の平成 20 年度センター事業実績、資料 4 センター利用状況、資料 5 平成 21 年度在宅子育て支援ひろば事業の内容についてです。追加資料として、自然育児友の会が本日お持ちになった資料が 2 種類ございます。ここで資料 1 の席次表には載っていませんが、自然育児友の会よりもうひ

とかた近藤さんがお見えになっています。また事務局に子育て支援課の遠藤課長補佐が出席しております。資料に不足はございませんでしょうか。

それでは協議会を開催いたします。副田会長、よろしくお願ひいたします。なお副会長につきましては、昨年に引き続き日高委員にお願いしたいと思ひますので、よろしくお願ひ申しあげます。

会長

それでは平成 21 年度第 1 回子ども家庭支援センター運営協議会を開催いたします。まず、会議の傍聴について事務局よりお願ひいたします。

(次第 2 会議の傍聴について)

事務局

本協議会への傍聴ですが、府中市付属機関等の会議の公開に関する規則により、7 月 1 日号の広報「ふちゅう」で募集をいたしましたところ、応募はございませんでした。また、本日の資料及び議事録につきましては、市のホームページと市政情報公開室で公開いたしますので、ご了解ください。

会長

傍聴者なしということなので、次に進みたいと思ひます。

委員の自己紹介についてお願ひいたします。新しい委員さんもいらっしゃるので、順次簡単に自己紹介をお願いします。

(次第 3 委員自己紹介)

委員

(順次自己紹介)

(次第 4 平成 20 年度子ども家庭支援センター事業報告と平成 21 年度の取組みについて)

会長

平成 20 年度事業報告及び平成 21 年度の取組みについて事務局より説明をお願いします。

事務局

資料 3 及び資料 4 に基づき、平成 20 年度子ども家庭支援センター事業実績、平成 20 年度子ども家庭支援センター利用状況について、ご報告申しあげます。

資料 3 のうち、まず 1 から 9 までご説明いたします。1 の「ひろば事業」と、「リフレッシュ保育」については資料 4 もご覧ください。1 の「ひろば事業」ですが、20 年度の交流ひろば登録者は 5,577 人、利用者は延べ 102,983 人でした。夏休み期間の 7・8 月は月間利用者が 10,000 人を超えています。2、3 の「すやすやクラブ」・「ころりんクラブ」については、母と子を対象にした少人数グループの交流や仲間づくりの事業です。4 の「ミニすやころ」については、20 年度は実施しませんでした。5 の「はいぽ」については、1 才児前半コースを 5 月と 9 月に 2 日間ずつ実施しました。6 の「カンガルータイム」については、4 つの講座を実施し、7 の「ベビーマッサージ」については 7 組 14 人の参加が、8 の「リフレッシュ保育」については延べ 1,533 人の利用がありました。9 の「ファミリーサポートセンター事業」については、活動件数は 6,628 件です。依頼会員に登録する為に月 2 回行なっている説明会に参加していただきますが、依頼したい、という方が多く、説明会の申込者が多くなっています。

資料 3 の 10 番よりご説明申し上げます。ここからは市の福田よりご説明申し上げます。10 の「要保護児童対策地域協議会」については、代表者会議、実務者会議、児童虐待相談

事例進行管理分科会を各2回づつ行ないました。11の「子ども家庭支援センター運営協議会」を2回開催しました。12の「子ども家庭サービス事業」、13「病後児保育事業」は、それぞれ資料のとおりです。14の「児童虐待ネットワーク事業」は、臨時事例検討会を90回、母子保健関係とのネットワークを推進するため、関係機関連絡会を12回、関係機関研修会を2回、職員相談員の養成、育成のための内部研修会を7回行ないました。また市民を対象とした子育て講演会を1回行ないました。15の「親支援事業」は、平成18年度から行なっている事業です。

16の「育児支援家庭訪問事業」は、訪問員が83世帯に述べ1,201回訪問し、17総合相談事業は、全相談件数に対して、育児相談が32%、虐待相談が22%、養育困難相談が24%を占めています。

会長

このことについて、何か質問はありますか。

委員

20年度にミニすやころをなぜやらないのかという声はありませんでしたか。

事務局

20年度にミニすやころをやらなかったのは、会場の規模の面から落選者に対応できないためと、市内で類似事業が増えたためです。ご意見としては、市民の方からアンケートにこういう機会を設けて欲しいとのご意見はありました。落選者へのはがきには地域情報を含めて返信しています。

会長

3歳児までが対象のプログラムは多いですが、4、5歳児対象の事業はしないのですか。幼稚園や保育所があるから必要ないということですか。

事務局

ひろばの利用者は0～3歳が8割を占めていて、その年齢層を受け皿のない年齢層と考えて焦点を当てています。

会長

夏休みになると3～5歳の利用は多くなりますか。

事務局

多くなります。春休みや夏休みに利用者が多い状況は変わりません。室内を走ってしまうお子さんには個別に声かけをしたり、小さい子への危険防止のための館内放送をしています。小さい子の母から、混む時間を避け、朝・夕の利用時間の少ない時間を選んできていると聞きます。東棟の和室を利用目的で来る親子もいます。また利用者同士で場所の譲り合いなどもあります。西棟についても、小さい子のスペースを利用者が認知されてきて大きい子との競合は少なくなってきました。

副会長

リフレッシュ保育とファミリーサポートセンターの申し込みが多い理由は。

事務局

リフレッシュ保育は利用についての理由が自由なので母のリフレッシュが目的の利用が

多く、また上の子の学校行事や、映画や食事で利用される方もいます。

ファミリーサポートセンターの利用理由で一番多いのは保育所・幼稚園の迎えと預りで、今年度は依頼会員の申込みが多く、具体的でなくても登録する人がいます。

会長

依頼会員と提供会員のバランスはどうか。

事務局

ファミリーサポートセンターは依頼会員が提供会員の3～4倍で、どの市でも状況は同じです。

事務局

引き続きまして、資料はありませんが、平成21年度の子ども家庭支援センターの新たな取組みについてお話しいたします。

まず1つめに病児保育事業を本年の4月1日から住吉町にある日野クリニック内で医療機関併設型の病児保育を市の補助事業としてスタートさせました。定員は一日5名です。月曜日から土曜日までですが、土曜日は正午までで、一日2,500円です。日野クリニックでは、以前から病児保育を行なっていましたが、利用料金が一日5,000円でした。市の補助事業とすることで、利用料金を低く抑えています。実績としては、4月からの3ヶ月で利用者は100名を越えています。一方で、現在行なっている病後児保育の20年度の利用者は12人と少なく、今後の課題と考えております。

2つめにセキュリティ強化事業として、子ども家庭支援センターたちは駅から近く、不特定多数の人の出入りがあるので、安心・安全な環境で利用していただくために土・日・祝日に警備員を配置しました。

3つめに子育てボランティア養成講座として、子育て支援ボランティア活動に求められる基礎知識や役割について専門講師など招いて連続講座として実施します。社会福祉協議会にご協力をいただきながら、講座終了後の活動につなげていきたいと考えております。10月～11月の土曜日の3日間で2時間づつ計6回の講座を行う予定です。

4つめの子育てひろば交流会の実施については、市が実施している事業の他に市内にある様々な子育てグループが活動されているので、子育てひろば関係者の交流会を実施します。詳細は未定ですが、今年の冬頃、保育課地域子育て支援担当や子ども家庭支援センターの他にいろいろな団体や個人が一堂に集まり交流できるものしたいと考えております。このことにつきましてご意見等お寄せいただきたいと考えております。

会長

このことについて何かご質問があればどうぞ。子育てボランティア養成講座が終了したら修了証書のようなものを渡すのですか。また、講座終了後に、実際の活動に繋げていくということが課題ですね。ファミリーサポートセンターの提供会員の登録をしてもらうという流れはどうでしょうか。目的はそこなのでしょう。

事務局

目的はそれだけではないですが、市内の子育て支援事業などに繋げたいと考えております。また、すでに活動しているボランティアが再度学ぶ場になるとも考えています。

会長

どこかの区が認定資格のようなものを発行し、いろんなボランティアに係わっていくというのを見ました。他に質問がなければ、次に、次第4の(2)について子育て支援課

長から説明をお願いします。

子育て支援課長

次世代育成支援行動計画後期計画における取組みについてご説明します。資料は特にご用意しておりませんが、今年度で前期計画が切れ、後期計画の方向性が見えてきましたので取り上げさせていただきます。行動計画の趣旨としましては、簡単に言うと少子化対策であり、これを推し進めるため、平成15年に次世代育成行動計画推進法は制定され、これに基づき、自治体は行動計画の策定が義務付けられ、本市としては平成17年3月に行動計画を策定しました。この計画は母子保健から保育、教育、まちづくりまでと、これまでの児童福祉の枠を超えた広い分野を巻き込んだ内容となっています。なお、法律では、行動計画を前期・後期に分け、前期は平成21年度まで、後期は平成22年度から平成26年度までの各5年ごとの計画とし、現在は前期行動計画に基づき取り組んできていますが、後期行動計画についても、策定作業に入っています。後期行動計画の策定は、市民参加の協議会であり、法律で位置づけられた次世代育成支援行動計画推進協議会の協議を踏まえて進められています。なお、この協議会は、毎年、行動計画の進捗状況を評価し、国へ報告しています。

子ども家庭支援センター運営協議会に係わる事業の方向性といたしましては、後期行動計画策定にあたっては、市民意向調査を実施するとともに協議会での協議結果を踏まえて、現在、具体的な事業のとりまとめを進めているところですが、いくつか子ども家庭支援センター運営協議会に係わる事業について次のように方向性が見えてきています。

一つ目が、情報の提供の充実です。子育てに関する情報が充分でないことが意向調査結果や相談事例などから判ってきたことから、たとえば市のホームページにおける子育て分野の検索機能のアップ、子育て団体が立ち上げたホームページ内に子育ての掲示板を設けるなど、また、母子手帳交付時だけでなく、転入時や定期健康診断時にタイムリーできめ細やかな情報を提供するなど、情報提供の充実を図っていきます。

二つ目としてはひろば事業の充実で、地域を越えた子育てに関するコミュニティーの形成を図っていくため、親御さんの仲間づくりの機会を提供していく場としてのひろばを展開し、団体間のネットワークの充実を図ります。

会長

このことについて、市民公募の方、何かご質問ご意見はありますか。

委員

次世代計画というのは、関連する機関が連携していくということですか。

子育て支援課長

その上で次世代を担う人を育成しようという各分野を網羅した計画です。機会があれば資料等で説明させていただきたいと考えています。

(次第5 地域の子育て支援と子ども家庭支援センターの役割について)

会長

事務局から協議事項の趣旨説明をお願いします。

事務局

市内には行政が実施する子育てひろば事業や、NPO・ボランティア・団体・個人が実施するものがあります。委員の皆様には、市民が育児で孤立しないように子育てに関する情報が入手しやすい、個人やグループ同士が連携しやすい情報提供の仕方や、ネットワークの

あり方についてご協議いただきたいと思います。これにつきまして、昨年2回開催された本協議会で、委員さんより出していただいた意見として、子育てサークル等がどこにあり、どこに行けば分かるか、常に新しい情報が集まっている場所が必要。先輩ママが新しい人に教えるといったことも重要。子育てひろばは、地域の支え合いを強化し、地域に根ざすことを目指しているので、ひろば同士が、利用者からの要望に対して、うちは出来ないがこっちは出来ますよといった相互の紹介がしあえるように、また、課題や機能について連携できると、それぞれのひろばが生きてくる。情報の共有と発信をどうすべきか、何を目的にしていくのか、将来どういう風に進めていくのかも議論するとよいのでは。また、運営協議会では、ひろばの役割を検討し、地域の力をどう育てていくのかを考えていきたい。他の自治体がどのようなことをしているかも参考になる。運営協議会の場で他の団体に話を聞くのもいい。とのご意見がありました。

この意見を踏まえまして、本日は、ひろばの活動の現状を話していただくために3人の方にお越しいただいております。

会長

ありがとうございました。それでは、まず保育課地域支援担当さん、お願いします。

保育課地域支援担当

ひろば事業の目的は子と母とがどうやったら楽しく接することが出来るかです。

子育てひろばポップコーンは、子ども家庭支援センターたちが出来る前に、母からの子育て相談が多いということから保育所の所長で分担して開始し、現在月曜日から金曜日まで市内6箇所、現在はボランティアが中心となって開催しています。内容は、子へ遊びを教える、親子のスキンシップを指導するというものですが、現在は友達作りや母の子育て不安の解消をメインとする運営をしています。PR方法は本日お配りした子育て応援情報「ひまわり」で行なっています。市内を4エリアに分けて事業を運営し、各エリアに拠点となる保育所で近隣の親子が遊びに来られる沙龙的な「ぬくぬく」を開催しています。本来はふらりと来ていただけるものが良いのですが、場所の確保が難しいのが現状です。

8月は総合体育館と文化センターの一部の「ポップコーン」が休みのため、公会堂利用の「ここん」を開催し、親子のふれあいと玩具を手作りしました。平成20年にモデル事業を実施し、好評だったので、平成21年度は東西で1か所ずつ実施します。

「ポップコーンパパ」は、参加者が少ないので、運営の仕方を検討中です。地域に分散して開催することが大切と感じています。

「園庭開放」は、平成20年度からエリアごとに曜日を決めて実施してみたところ、利用者が増えました。利用者の増加に伴って、遊び方や子育ての質問が増えました。

その他府中市美術館で行なっている「はじめてアート」は大好評で、利用をお断りする人数が多くなっています。好評なので、今年から回数を年4回から年5回に増やしました。

また、相談件数が年々増えていて、本当に子育ての悩みが深いのだと思います。担当スタッフも親の指導をするのではなく、母親がどんなことで悩んでいるかをキャッチし、相談できないでいればさり気なく声をかけ、話そうとするきっかけ作りに努めています。孤立している母親は友達ができるよう配慮し、問題を抱えている母親には、子ども家庭支援センターたちや保健センターと連絡、連携をとっています。子育てに悩み苦しんでいる母親たちにとって関係機関が連携して支援していくことが今後最も重要と考えています。現在市内には北部と中央に子ども家庭支援センターがありますが、そこに足を運べない親たちには交流ひろばでじっくり話せるような事業運営を平成21年度は更に意欲的に行なっていきたいと考えております。

会長

ありがとうございました。続いて自然育児友の会さん、お願いします。

自然育児友の会

10年前に事業を開始し、平成20年の10月から、ひろば事業C型として正式にベビーカフェを晴見町商店街にオープンしました。本日お配りした資料CHU Mapに案内が載っております。現在は小さい場所で、平成20年度は週3日、平成21年度は週5日開いております。登録は200人ほどいらっしゃいまして、大多数がリピーターです。毎日いらっしゃる方が多く、他地域など広範囲の方がいらっしゃっています。最初は「お茶会を府中で開こう！」といったものでした。利用者は、悩みというよりゆっくりおしゃべりすることが目的の方が多そうです。しかし2年目に入り、DVや虐待といった話も出てきていて、市へも1回もしくは2回報告しました。また、最初は母同士の助け合いで運営していましたが、今はスタッフの研修などの必要を感じています。配付しました資料は市の市民活動支援課の助成を受け、市民参加も得て、1万部を作成しました。3回目の今回は、子育て支援ひろばマップを作成する予定です。市内にいろんな団体があるので、毎週金曜日に編集会議を行っています。現在20名の母が登録していて、情報が集まっています。平成22年3月には作成したいと考えております。研修などの学びの場が少ないので、ひろば事業の研修を東京都が行なうときにみんなで参加しようと思っています。

横の連携が必要と思いますので、今後もよろしくお願いします。

会長

今のお話に対してご質問はありましたらどうぞ。

市内に常設のひろばは他にありますか。

子育て支援課長

民間のひろばは把握していません。C型はベビーカフェひとつで常設です。市が補助している団体は3か所で、地域に根ざしていることが条件です。拠点を持って続けて運営するというのは難しく、母が自主的に運営しているものはありますが、生まれたり、なくなったりしています。

自然育児友の会

ひろばC型は今全国で約900か所あります。

委員

運営費はどうなっているのですか。

自然育児友の会

市から委託費をいただいています。もともとお茶会を開いてきた団体ですから営業目的のものではありません。マップの作成には市から補助金をいただき、1万部作成しました。母の視点で母が興味を持つテーマを編集しました。

会長

今後府中市のひろばと民間で活動しているひろばの間で情報交換をするための交流会はやっていくのですか。

事務局

現在約10の団体が活動しておられます。自然育児友の会は府中市と他団体との交流を期

待されますか。

自然育児友の会

団体によって得意分野が異なるため、交流を期待しています。市は予算もあるし、人もいるし、専門の方もいる。NPOは小さいなりに頑張っています。それぞれの得意分野を活かして、他団体と情報を共有しながら協力していきたいと思います。

会長

民間と市のコラボレーションなどできたらと思います。みなさんからご意見はありますか。

副会長

交流会のイメージは。

事務局

まだ検討中の段階ですが、円卓会議のようなものをイメージしています。各団体が自分たちのPR資料等を持ち寄ってテーブルに置いたりなどして交流するもので、市民の方にも顔を出しませんか？という風に、気軽に見に来たりできるようなものがないのではと思っています。皆さんの意見を伺いたいです。

副会長

あまり労力がかかってその後続かなくなるより、場所や時間を決めて市民が来て必要な情報を取り合ったり交流しながら遊べるものがないのではないのでしょうか。最初にどんな交流会にするかを聴く準備会をやって、その中で企画もそういう人たちが求めるものを聴くというのはどうでしょうか。また次世代育成の意味も含めてもうすぐ親になる学生や、保育の勉強をしている人もボランティアとして参加してもらうなどして、講演会などのような固いものにならないようにすることも必要です。

会長

交流会のイメージは、市と各団体のネットワークを作るものですか、市民が各団体を知る機会をつくるものですか。

事務局

どちらもあると思います。

委員

誰がリーダーになり、誰を取り込んでいくのかが問題ではないでしょうか。

会長

声かけはたちがやるんですね。リーダーは行政だと思いますが、ネットワークを作る目的を明確にすることが大切です。行政からするとどこにどんな団体があるか把握していない。ネットワーク作りだとしたら、何を目指していったらいいのでしょうか。

子育て支援課長

近年地域のコミュニティーが希薄になっています。それに代わるものとして、ママ友グループをつくるために、情報提供やひろばの充実をはかることで及びもつかない地域活動づくりが出来るのではないのでしょうか。相談を地域と顔の見える関係でたちただけでなく

受けていき、連携することが大事だと思います。自然育児友の会も全国組織だが、今の母はメールで連絡し合っており、今の母のニーズを思うと一団体ではなく複数の団体でニーズを話し合うことも出来るのではないのでしょうか。ベビーカフェのホームページに掲示板を出してもらい、悩み事の相談にも答えていくなど、仕組みづくりを作っていきたい。

自然育児友の会

C型ひろばの役割には相談が入っていて、相談もお母さん対お母さんで対応しています。

委員

ママ同士のツールは携帯がほとんどです。メーリングリストなども活用しています。情報量は多いです。そういう風につながっていけば、今どういう風に入っていけばよいかわからないお母さん達も参加しやすくなると思います。

自然育児友の会

スタッフは育児で悩んできて助けてもらったお母さん達が、今度は、自分が人の役に立ちたいと参加している人たちです。私たちが行なってきた活動がひろば事業に当てはまると思い、ひろば事業の申請をしました。今はまだ自分たちの母親としての体験をもとにした子育て支援のみなので、いろんな機関・団体の活動を知ることでよりいいものにしていきたいと思います。

委員

助産師もいくつか小さいグループがあり、たまっちょクラブ・くまっちょクラブなどがあります。参加しているお母さんには、自分たちでサークルをやってみるとか、参加するだけで自分がやるのは躊躇するなどいろいろな方がいると思います。また、昔編集の仕事をしていたので、ちょっとやってみたいという方に場所を提供するやり方を紹介できるなどそういう人たちが情報交換できて、交流できる場所があるといいと思います。そういう人たちは活動の場がなく、場所探しも大変です。

委員

社会福祉協議会では、グループへの支援として、3年間という期限付きですが、助成事業の他に活動室が提供できます。

会長

活動したくても場がないという人も多いようです。常設があると活動しやすいようです。地域福祉のために出すお金。たちの一室や社協のボランティア室など貸せたらいいと思います。

事務局

地域子育てとひろば事業など地域の公会堂を使用する場合に場所代（活動費）を補助する事業があります。子育てひろば事業の特徴はいつでも誰でも気軽に行けることです。悩みは立ち上げた後の後継者を育てることです。

会長

そのあたりを市と各団体で話し合うと良いのではないのでしょうか。一般の母親たちが公会堂情報等を知る方法はありますか。

委員

知らないものもあるかも知れません。

保育課地域支援担当

総合してみんなやろうとしているのが子育て支援事業です。市が事業を行っているときは情報を施設に置くことができます。市内の団体のパンフレット等はポップコーンで配っています。ベビーカフェはパンフレットを準備中らしいですが、メールやネットだけでなく会ってみて初めてわかることもあると思います。最大の目的は子育てに悩んでいる人を漏らさないことです。

最初はこういう感じと決めてかかることは難しいので、まずたちがまとめて情報交換をできればいいなと思います。協力したいと思います。

副会長

交流会は単発に1回ずつの活動をしている方も対象にするなども含めてHPであるのかなど今後情報提供の仕方についても検討しなくてはいけないですが、年に1回だけではもったいないと思います。

事務局だけでは大変だろうし、行政と共に活動するのをよしとしない団体もあるかもしれません。少しお手伝いできればと思っています。

委員

基本は行政色があまり出ないほうがいいと思います。あくまできっかけづくりであり情報発信源。

委員

話が多岐に渡っている印象を受けます。情報収集のための交流会なので、そういうものをやるんだということで交流会やってみて、そこから浮かび上がってくるものを課題としていくのはどうでしょうか。

委員

いろんな事業をやっていて、参加していることが沢山あると感じました。MAP等もあるテーマに特化したものもあるかもしれないし、情報発信元をどうやったらできるかなど、交流会を開くことで出てくるのではと思います。

会長

交流会をやるならば目的を持った方がいいと思いましたが、とにかくやってみるという意見が多く、それもいいと思う。しかしそうなら事務局が大事になるので、民間の方が事務局をしたほうがいいのかなと感じました。

副会長

東京都でも同じようなことが課題になっています。事務局のようなことを担う民間団体があってもいいのではないのでしょうか。行政は人事異動がありどんどん替わってしまうという印象があり、また発想性に乏しい。最初は行政が事務局をやったとしても、数年後を目指してだんだん民間が出来てくるといいなと思います。

委員

毎月1回地区子ども会が役員会として集まっています。活発で校外の方が役員をしています。そういう人が地域で運動会を開いたりしています。活動の場所は是政の町内に会館があり、3つ部屋がある。地域の活動のために場所を提供できると思います。

会長

乳児のグループと、学童の母のグループを分ける必要があるかもしれません。

委員

子ども会が6か7団体しかありません。府中はそういう活動が少ないです。

委員

多摩ランナーが11月3日にルミエール府中で開催されます。多摩地域の助産師会等の集まりがあります。

会長

ありがとうございました。

(次第6 その他)

会長

事務局から何かありますか。

事務局

現運営協議会の委員さんの任期が今年度までです。また、運営協議会で話し合う議題についても、平成18年6月の要保護児童対策協議会の発足を受けて、子ども家庭支援センターの役割のうち、地域の子育て支援活動を推進し、子どもと家庭支援のネットワーク作りについて、協議していただきたいので活動団体の方に参加していただくなど、委員さんの構成の変更を考えております。具体的には次回の協議会で議題とさせていただく予定ですので、よろしく願いいたします。

会長

何かご質問等がありますか。

事務局

本日はお忙しい中お越しいただきましてありがとうございました。次回の開催予定は平成22年1月15日を予定しております。本日ご協議いただいた内容を踏まえまして、更なるご協議をお願いしたいと思います。

会長

ありがとうございました。